

蘭越町農業振興プロジェクト

【格差の分野】 地域経済の格差

【支援期間】 平成21年度～平成23年度

目的

地域の振興作物について、品質向上によるブランドの確立と安定生産に向けて、行政と生産者・生産団体が一体となった取組を進めることにより、農業者の所得確保を図るとともに、農業の振興を通じた地域活性化を図る。

事業概要

地域間格差の是正に向けて、農業振興プロジェクト会議設置事業外各種事業を展開し、振興作物の生産拡大、生産コスト削減、クリーン農産物の安定生産等による農業所得の確保により、蘭越町農業の再生と振興を図る。

主な取組

- ①農業振興プロジェクト会議で本町農業の課題等を協議し、農業振興方策を提言した。
- ②札幌圏の消費者にらんこし米の食味の良さをPRする活動を展開した。
- ③農業技術指導員の配置による「らんこし米」の品質向上とクリーン農業を促進した。
- ④化学肥料と堆肥コストを低減する施肥体系への転換を推進するため、土壌診断を奨励した。

効果

- 農業振興プロジェクト会議で、イエスクリーン米等の高付加価値米の平成26年度までの作付目標面積を800haと設定し、拡大のための助成措置を町に要請することが決議された。(H21 58.5ha、H22 49ha、H23 45.7ha だが、H23年度に町育苗施設(温湯消毒装置付)を増設し、町独自の支援策も検討し、目標達成を目指す)
- 農業技術指導員を配置し、迅速・的確な営農技術指導の推進を図ることができた。
- 新米キャンペーンの開催により、消費者のらんこし米の好感度・知名度が向上した。
- 振興作物の販売額(千円) ×メロン H21 201,000 H22 181,000 H23 174,000
トマト H21 109,000 H22 157,000 H23 179,000
- 米需要量情報算定に係る市町村別ランク区分 H21 4ランク H22 5ランク H23 4ランク

※H23 ランク低下要因 H23年の算定基準(H19～21年)の19年が冷害年だったため。

今後の展望

事業は町が主体となって推進するが、関係団体、農業者の主体的な取組も促し、全町的な展開に向け、プロジェクト終了後も持続的な活動を支援する。プロジェクト期間中は交付金を充て、その後も町の財政状況を考慮しながら、一定程度の予算の確保に努める。



農業振興プロジェクト開催風景



農業振興プロジェクト会議(研修会)



町内の作況調査(農業技術指導員)



札幌圏での新米キャンペーン

課題・問題点

- らんこし米は、良食味米として高い評価を得ているが、消費者の食の安全・安心指向に対応するため、減農薬・減化学肥料の環境保全型農業を推進し高付加価値化を図るとともに、併せて米以外のトマト・メロン等の振興作物についても環境保全型農業を進めることが課題となっている。
- H21～23年の3年間のメロンの作付面積は24.5haで変わらないが、市場価格の低迷や豪雨による尻腐れで製品化率が低下し販売額が減少しているため、肥培管理を徹底して製品化率と品質の向上を図り販売額を増加することが課題となっている。

地域再生プロジェクトの実施結果調書

市町村名	蘭越町
------	-----

1 地域再生プロジェクト実施結果（プロジェクト全体）

（3年計画のうち 3年目）

実施主体	市町村名：蘭越町 民間団体名：		計	1市町村 団体
プロジェクト名	蘭越町農業振興プロジェクト		格差の分野：地域経済の格差	
地域重点プロジェクトとの関連性	<input type="checkbox"/> 該当	◆地域重点プロジェクト名	◆主な取組	
	<input type="checkbox"/> 非該当	「食」の“しりべし”ブランド化の推進	○クリーン農業の推進など安全・安心を基礎とした「食」のブランド力の向上	
地域の課題及び地域再生プロジェクトの目標	<p>◆ 地域の課題</p> <p>本町で生産される、らんこし米は、食味の良さから全道的に高い評価を得ているが、道内外における産地間競争が激化する一方、米価の低迷や資材価格の高騰など、農業経営環境はますます厳しくなっている。また、米の消費低迷による畑作物の転換も定着しているが、高品質な作物のブランド化と安定生産による所得確保が求められている。</p> <p>◆ プロジェクトの目標</p> <p>近年、食の安心安全が消費者の注目を集めている中で、クリーンな農産物の需要が高まっている。食味で高い評価を得ている「らんこし米」とともに、町の振興作物として定着し、所得確保に重要な位置付けとなっている「メロン」、「トマト」の品質向上とブランド確立に向けて行政と生産者、生産団体が一体となって取り組む。</p>			
取組の成果	住民等の評価			
	町農業振興プロジェクト会議の議論の中で、新たな振興作物の選定にかかる答申があり、準振興作物として、ピーマン・スイートコーンを町で指定した。			
	計画に対する達成度	農業技術指導員の配置により、迅速・的確な、営農指導が実施できた。らんこし米のブランド確立のためのPR活動が実施できた。		
	具体的な効果	交付金支援期間終了時の成果目標に対する現時点での達成状況		
	<ul style="list-style-type: none"> 米需要量情報算定に係る市町村別ランク区分 4ランク 主な振興作物販売額（21年度→23年度） <p>メロン 201,000千円→174,000千円(87%) トマト 109,000千円→179,000千円(164%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 米需要量情報算定に係る市町村別ランク区分 4ランク 主な振興作物販売額（23年度→23年度） <p>メロン 214,000千円→174,000千円(81%)、トマト 103,000千円→179,000千円(173%)</p>		
プロジェクト推進上の課題・問題点	課題点等			
	町内農家の経営構造を総合的に検討する蘭越町農業振興プロジェクト会議では、本町農業の現状分析を進めながら、農業方策を検討しており、「持続循環型農業」や「クリーン農業」の推進により、町内農産物に付加価値を付けていくことが重要であるという意見が出された。			
	課題を踏まえた今後の展開			
	本プロジェクトの推進に当っては、町や町農業委員会、ようてい農業協同組合、町水稻生産組合等関係機関と連携を図り、農事組合長会議や、各種会議での周知及び資料等で各農家に理解と普及を進める。らんこし米の品質向上、畑作・園芸作物の技術指導やイエスクリーン等作物の作付け拡大等を目指して農業技術指導員による農家への技術指導を着実に進める。農業振興プロジェクトや専門的な知見を有する立場から意見・助言農作物の品質向上及びブランドの確立を達成するためには農業技術指導員の配置は重要である。			

2 地域再生プロジェクト構成事業

(1) 実績額について

(単位：千円)

No	事業名 実施主体名	実施 期間	年次	事業費	財 源 内 訳						交付金 要望額	
					国庫補 助金等	道補助 金 等	市町村補助等		市町村 自己財源	民間等 自己財源		その他
	補助金等						委託費					
1	農業振興プロジェク ト会議設置事業 蘭越町	2 1) 2 3	全体計画	598					598			590
			初年度(21)	210					210			210
			2年度目(22)	178					178			170
			3年度目(23)	210					210			200
2	農業技術指導員の配 置 蘭越町	2 1) 2 2	全体計画	18,803					18,803			11,290
			初年度(21)	6,645					6,645			6,640
			2年度目(22)	6,045					6,045			4,650
			3年度目(23)	6,113					6,113			0
3	イエスクリーン米等 生産推進対策事業 蘭越町	2 1) 2 2	全体計画	312					312			60
			初年度(21)	207					207			40
			2年度目(22)	105					105			20
			3年度目(23)									
4	「らんこし米」新米 キャンペーン等PR事 業 蘭越町米麦改良協会(公)	1 2) 2 3	全体計画	3,220			3,000			220		3,000
			初年度(21)	1,496			1,400			96		1,400
			2年度目(22)	831			800			31		800
			3年度目(23)	893			800			93		800
5	施肥体系転換土壌分 析推進事業 JA ようてい土づくり協議会	2 1) 2 3	全体計画	2,822	806		1,020			996		410
			初年度(21)	1,726	806		460			460		0
			2年度目(22)	524			274			250		130
			3年度目(23)	572			286			286		200
6	農業用廃プラスチック 適正処理奨励事業 蘭越町	2 1) 2 2	全体計画	444					444			440
			初年度(21)	212					212			210
			2年度目(22)	232					232			230
			3年度目(23)									
計	事業数 [6]		全体計画	26,199	806		4,020		20,157	1,216		15,790
			初年度(21)	10,496	806		1,860		7,274	556		8,500
			2年度目(22)	7,915			1,074		6,560	281		6,000
			3年度目(23)	7,788			1,086		6,323	379		1,200

- 注 1 プロジェクトを構成する全事業の実績について記載すること。
 2 「事業費」、「財源内訳」及び「交付金要望額」欄は実績額又は予定額を記載すること。
 3 その他記載に当たっては、別記第2号様式に準じること。

(2) 実施内容について

No	事業名	計画内容	年次	実施状況	効果・課題	今後の展開
1	農業振興プロジェクト会議設置事業	町の農業経営戦略の位置付けをするため、現状分析と将来を見据えたビジョンを策定する。	初年度(H21)	振興作物に対する検証と新たな振興作物の選定	ミトマト・ピーマン・スイートコーンを新たな振興作物とし、作付拡大を図る。	農業後継者・新規就農者の確保等の対策の検討。
			2年度目(H22)	町農業の現状分析と農業振興方策の検討	らんこし米の高付加価値米の増産方策	イエスクリーン米等の作付拡大
			3年度目(H23)	らんこし米の高付加価値米の増産目標の設定	イエスクリーン米等拡大のため助成措置の提言	イエスクリーン米等の作付拡大
2	農業技術指導員の配置	らんこし米の品質向上、畑作・園芸作物の技術指導、イエスクリーン等作物の作付け拡大のため、町独自で技術指導員を確保することにより、町農業者の相談等に対し迅速な指導・アドバイスが可能となる。	初年度(H21)	農産物の生産技術指導等農業経営全般について普及指導を行う	迅速・的確な営農指導が実施できた。	普及センター等関係機関との連携強化。
			2年度目(H22)	農産物の生産技術指導等農業経営全般について普及指導を行う	迅速・的確な営農指導が実施できた。	普及センター等関係機関との連携強化。
			3年度目(H23)	農産物の生産技術指導等農業経営全般について普及指導を行う	迅速・的確な営農指導が実施できた。	普及センター等関係機関との連携強化。
3	イエスクリーン米等生産推進対策事業	食の安全・安心指向の高まりと、流通・販売面におけるクリーン農業の差別化に対応し、イエスクリーン米等に取り組む農業者に対して、温湯消毒機の購入経費の一部に助成。	初年度(H21)	温湯消毒機の導入に対し、費用の一部を助成(町内3戸)	イエスクリーン米作付面積の拡大が図られた。	導入台数の拡大を図る。
			2年度目(H22)	温湯消毒機の導入に対し、費用の一部を助成(町内2)	イエスクリーン米計画面積に対し、高温多湿の気象条件で、農薬散布回数が増加し実績面積が減少した。	町で増設する育苗施設で温湯消毒をH24年度より実施することにより、イエスクリーン米等の作付を拡大する。
			3年度目()			
4	「らんこし米」新米キャンペーン等PR事業	らんこし米のブランドの確立を図ると共に札幌圏の消費者にらんこし米の食味の良さをアピールしらんこし米の販路拡大を図る。	初年度(H21)	らんこし米化粧袋(1Kg用)を新たに導入	らんこし米のPRに活用された。	PR活動を通じて、消費者ニーズを探り、販売戦略の構築
			2年度目(H22)	らんこし米パンフレット等の増刷	らんこし米のPRに活用された。	PR活動を通じて、消費者ニーズを探り、販売戦略の構築
			3年度目(H23)	らんこし米アンケートの実施	らんこし米に対する評価が高かった。	PR活動を通じて、消費者ニーズを探り、販売戦略の構築
5	施肥体系転換土壌分析推進事業	化学肥料と堆肥コストを低減する施肥体系へ転換を推進するため、土壌診断による施肥設計見直しを推進。	初年度(H21)	土壌診断経費の国費助成残の1/2を助成	土壌診断による施肥設計の見直しが図られた。	土壌診断による施肥設計見直しを推進。
			2年度目(H22)	土壌診断経費の1/2を助成	土壌診断による施肥設計の見直しが図られた。	土壌診断による施肥設計見直しを推進。
			3年度目(H23)	土壌診断経費の1/2を助成	土壌診断による施肥設計の見直しが図られた。	土壌診断による施肥設計見直しを推進。
6	農業用廃プラスチック適正処理奨励事業	循環型農業の推進のため、農業用廃プラスチックの回収リサイクル事業への引渡し等適正な処理を奨励するため経費の一部を助成。	初年度(H21)	処理費用の1/6を農家に対して助成	廃プラスチックの適正処理が図られた。	廃プラスチックの適正処理を推進。
			2年度目(H22)	処理費用の1/6を農家に対して助成	廃プラスチックの適正処理が図られた。	廃プラスチックの適正処理を推進。
			3年度目()			

注 1 (1)に記載した番号に対応する事業について、プロジェクトの期間を通じて、実施状況及び効果や課題を踏まえた今後の事業展開を記載すること。